

「さばきを行う方は、ただひとり」ヤコブ4：11, 12 11・11・20 先行する神の恵み：主は、私たちの悪口や人をさばく罪の為に十字架で死んで下さいました。

I 悪口とさばき 1. 悪魔は、私たちを誘惑して、教会の中に戦い、争い（4：1）、悪口、さばき合いを入れて分裂させようとしています（I ペテ5：8）。ですから目を覚まして祈りましょう。2. 悪口やさばくことは、私たちが、へりくだりがなく、高ぶっている（：6, 10）ことのしるしです。私たちの罪の心は、他の人の悪口を言うことによって、自分を高めようとしています。そうすることにより、かえって自分の品位が下がるのですが。私たちも反省したい。非難、うわさ、中傷により、多くの人を傷つけ、交わり、一致を壊してしまう。この罪を神に告白し（I ヨハ1：9）、赦され、心と口をきよめていただくように祈りましょう。3. 「自分の兄弟の悪口を言いさばく者は、律法の悪口をさばいている」：11→律法をまとめて言うなら、まず愛され、救い出して下さった（出20：2）「神を愛し、隣人を愛しなさい」（マタ22：36～40）です。それを知っていながら少しも改めず人の悪口を言いさばき続ける（神と人を愛する事の反対）なら、「神の律法なんか恐れる必要はない、たいしたことはない、守る必要なんかない」とばかにし、さばいていることになります。「もし、律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です」→本来、私たちは、神の律法が良いものか悪いものかを判断する（「さばく」の原語は「判断する」の意味もある）、さばく者ではなく、神の律法を守る（行う）べき者です。ところが、人の悪口を言いさばき、結果的には、律法をも重んじないで人をさばくなら、守る者という本来へりくだった立場からずれて、さばく者という高ぶった立場に自分を押し上げているのです。4. 「律法を定め、さばきを行う方は、ただひとり」：12→間違いのない正しい律法を定め、善悪の正しい判断、さばく資格があるのは、神のみです。自分にとって自分が律法（自分の意志がいつも正しい）となれる究極的な真理を持つお方は神だけです（ヨハネ14：6）。人間は、世間の目や流れや利害関係ですぐ動いたり、ぶれてしまい、真理や善悪の判断を曲げてしまいます。しかし、この御言葉は、教会の戒規（マタイ18：15～17）や社会の裁判所や裁判官を否定しているわけではありません（ローマ13：1）。と同時に、裁判官も弱さと誤りを持つ一人の人間ですから、良く見守り祈りましょう。正しい判断を下す人は、悪い権力や組織によって妨害されます。「その方（神）は救うことも滅ぼすこともできます」：12→神は、私たちの命と死との支配者です。神は、私たち人間を「ゲヘナ（地獄）に投げ込む権威を持っておられる」（ルカ12：5）。神は、へりくだる者を救い、高ぶる者を滅ぼされます（ヤコブ4：6）。神の家族である教会のある人の悪口を言いさばき続け、主の教会を乱す人を神はさばかれます（I コリ3：17）。「隣人

をさばくあなたは、いったい何者ですか」。私たちは、神によって造られ、命が与えられ、神の許しなしには一秒でも生きる事は出来ない者です。また、この神に罪を犯し、すぐにさばかれても当然な者なのに生かされている。これらの驚くべき恵みを忘れ、自分が何者であるかのように思い上がり、神の座につき、他の人をさばいてしまうことを悔い改めたい。他の人をさばく資格のない、罪と弱さと欠点の多い者、罪人のかしら（Ⅰテモテ1：15）であることを認めたい。ただ神の憐み、恵みで救われ生かされている私たちです！

Ⅱ悪口や人をさばく罪に打ち勝つために。1. まず、自分自身に悪口や人をさばく（過度に批判的、あら捜し、自分はいつも正しく他人は間違っているという高ぶり）罪があることを認め、神に告白しましょう。神は赦して下さいます。Ⅰヨハネ1：9。 2. 私たちの心を聖霊なる神が支配され、満たされ、私たちの口と心を聖めて下さるように祈りましょう。ルカ11：13。 3. 当の本人に謙遜と柔和（ガラ6：1）と愛（エペソ4：15）をもって話さず、他の人に悪口として言いふらす時、それは、さばく罪となり分裂や分派を起こすことになります。悪魔は、この方法で多くの交わりを分裂させて来ました。 4. ある人に本当にアドバイスしなければならない時は、その人以外の人に先に言いふらさず、祈りつつ当人に愛と真実を持って話します。エペソ4：25。自分の立場で考えても、もし、ある人が、自分自身に話してくれる前に、他の人に自分の問題点を言いふらしていることを知ったら、どんなに傷つくでしょう。※当の本人に話すためには、かなりの勇気と愛が必要です。悪口としてではなく、信頼できる人に相談し、聞いてもらい、冷静になり、祈ってもらい、時満ちて、場所と時をわきまえて、祈りつつ話すことは良い事です。その場合、聞いてあげる立場の人が興奮して（その人以上に怒る）、一緒に裁かないことが大切です。それでは、助けにならず、かえってマイナスです。 5. 自分も不完全である事をいつも認め、互いに過度の期待、要求をしてはなりません。マタ7：1～5。陰口や中傷は、自分の所で止める。偏ってではなく、すべてのことを正しく知っておられる神に祈る。神が働いて下さるように。自分自身が、悪口を言う人ではなく、愛を持って神の祝福を祈る人に変えられるように。「祝福すべきであって、のろってはいけません」ローマ12：14。人のあら捜しをするさばきの代わりに、祈りつつその人の良い所を捜し、評価し、感謝することができますように。まず教会の中でこの愛を実践できますように。残りの人生、いつも人の悪口を言いさばき、交わりを壊す人生か、いつも人の良い所（それぞれへの神からの賜物）、やってくれた事を評価し励まし生かす人生にするかは、私たち次第です。今年度の目標聖句「互いに励まし合い、互いの徳を高め合いなさい」Ⅰテサ5：11。祈り：心に神の愛を注ぎ続けて下さい。悪口を言う者ではなく、愛して祈り支える者にして下さい。